

# 極域科学専攻履修モデル 博士課程(5年一貫制)

教育研究指導分野: 極域生物圏分野

研究課題: 周水環境における微生物生態系に関する研究

年次	総合教育科目	単位	研究科共通基礎科目	単位	概論科目群	単位	専門科目群	単位	研究指導科目群	単位	フィールドワーク他
1	フレッシュマンコース	2	先端地球科学通論Ⅰ 先端地球科学通論Ⅱ	2 2	極域陸上生態学概論	2	極域湖沼生態学 極域多様性生物学 極域陸上生物解析論	2 2 2	極域科学特別研究ⅠA・ⅠB 極域科学特別演習ⅠA・ⅠB	4 4	夏期に国内の高山において、雪渓上の微生物群集サンプリングを実施
	<p>&lt;到達目標&gt; 複合科学、極域科学の全般について幅広く学習するなかで、博士論文の研究テーマ及び研究計画の大枠を設定する。2月開催の学生発表会で、これまでの研究成果及び今後の計画を発表し、指導教員のみならず専攻の教員集団全体のレビューを受ける。</p>										
2			極域複合科学概論 極域海洋環境システム	1 2			雪氷コア古気候論	2	極域科学特別研究ⅡA・ⅡB 極域科学特別演習ⅡA・ⅡB	4 4	夏期にノルウェー・ニーオルスン基地にて氷河上の微生物生態系の観測活動に参加
	<p>&lt;到達目標&gt; 博士論文テーマの絞り込みを行い、具体的なテーマ及び研究計画を決定する。博士論文データ取得のためのフィールドワーク等を実施することもある。2月開催の学生発表会で、これまでの研究成果及び今後の計画を発表し、指導教員のみならず専攻の教員集団全体のレビューを受ける。</p>										
3									極域科学特別研究ⅢA・ⅢB 極域科学特別演習ⅢA・ⅢB	4 4	日本南極地域観測隊夏隊に同行者として参加し、氷床上の微生物生態系に関する観測を実施
	<p>&lt;到達目標&gt; フィールドワーク等により、博士論文テーマに沿って必要なデータ取得を行うとともに、データの解析を行う。2月開催の学生発表会で、これまでの研究成果及び今後の計画を発表し、指導教員のみならず専攻の教員集団全体のレビューを受ける。</p>										
4									極域科学特別研究ⅣA・ⅣB 極域科学特別演習ⅣA・ⅣB	4 4	
	<p>&lt;到達目標&gt; 博士論文作成に必要なデータ取得を完了させ、データの解析を進める。さらに、博士論文の執筆に入る。また、博士論文に関係する内容で、査読ある学術誌に論文を投稿する。年度末までに入学後の研究成果をまとめた中間報告書を作成し、各研究グループの教員の評価を受ける。また、2月開催の学生発表会で、これまでの研究成果を発表し、指導教員のみならず専攻の教員集団全体のレビューを受ける。</p>										
5									極域科学特別研究ⅤA・ⅤB 極域科学特別演習ⅤA・ⅤB	4 4	
	<p>&lt;到達目標&gt; 博士論文の執筆を進める。予備審査の段階までに、論文の完成度が博士論文の水準の80%までに至っていることを要する。予備審査後、本審査出願までの間に予備審査委員会による指摘事項をクリアし、博士論文を完成させる。</p>										

単位数                    2                                    7                                    2                                    8                                    40  
                                   ①                                    ②                                    ③                                    ④                                    ⑤

取得単位数	59
修了必要単位数	38

(ただし、必ず②を8単位含むこと。①は2単位を限度に修了必要単位数に認める。この他、他大学の単位互換制度による取得単位を一定範囲で修了必要単位数に含めることが出来る。)